

平成30年6月11日現在

機関番号：82621

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2017

課題番号：16K13176

研究課題名(和文)近代日本のタイムカプセル研究：ハーバード大学アーカイブズの成立との関係性を中心に

研究課題名(英文)A Research on Time Capsules in Modern Japan: relationship with the establishment of the Harvard University Archives

研究代表者

坂口 英伸(Sakaguchi, Eishin)

独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館・その他部局等・研究員

研究者番号：00646440

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究にて明らかとなった成果は、戦前と戦後の日本のタイムカプセルの淵源として、1936(昭和11)年に開催されたハーバード大学創立300年記念祭を指摘した点である。同記念祭に刺激されて制作されたタイムカプセルの事例として、戦前では1904(昭和15)年の紀元二千六百年文化柱が指摘され、戦後では1958(昭和33)年の慶応義塾大学創立100年記念祭で作られた「壺」がある。近現代日本のタイムカプセルの誕生の要因として、アメリカからの影響を指摘できよう。

研究成果の概要(英文)：The results revealed in this research indicate that the Harvard Tercentenary celebration (celebrating the 300th anniversary of its founding) held in 1936 (Showa 11) was the origin for Japan establishing time capsules before and after World War II. An example of the time capsules produced prior to the Harvard celebration pre-war include the '2,600th Anniversary Culture Pillar' from 1904 (Showa 15). After the war, there was a 'vase' made at the 100th anniversary celebration of Keio University in 1958 (Showa 33). Consequently we are able to show the influence of the United States as an important factor for the birth of the modern Japanese time capsule.

研究分野：芸術学

キーワード：タイムカプセル ハーバード大学 慶応義塾大学 紀元二千六百年 文化柱

1. 研究開始当初の背景

タイムカプセル (time capsule) という語は、1937 (昭和 12) 年にジョージ・エドワード・ペンドレー (George Edward Pendray) によって案出された造語である。ことタイムカプセルの情報は、ほぼ時間差を経ることなく、当時の昭和戦前期の日本に、雑誌や新聞などを通して伝えられた。

本研究は、タイムカプセルという語句と用語の伝播の経緯を具体的に明らかにしようとする試みである。

その事例として取り上げるのは、紀元二千六百年文化柱 (写真 1) とハーバード大学創立 300 年記念祭 (1936 年) との関係性である。



【写真 1】

紀元二千六百年文化柱、1940 年竣工、長野県茅野市所在

紀元二千六百年文化柱は、1940 (昭和 15) 年の紀元二千六百年を記念する目的で作られたタイムカプセルで、蓼科高原の標高 1,300m の地点に建造された。建設主は新聞之新聞社で、その創業者である式正次が主導してその建設を 1940 年に実現させた。この白亜のドームの中では、紀元二千六百年に係る 6,000 点以上の資料 (書籍、ポスター、色紙、絵画作品、日用品など) が保存されているといわれており、規模の点では日本最大のタイムカプセルといえるだろう。

紀元二千六百年文化柱の建設のヒントは、ハーバード大学創立 300 年記念祭で行われた「手紙の封緘と開封」にあるとされてきた。すなわち、これは現代風に表現するならば、「タイムカプセル郵便」とも名付けるべきイベントである。それは 100 年後の西暦 2016 年後の創立 400 年祭で開封するために書かれた手紙類を大学関係者の手で封じて大学アーカイブズで 100 年後まで保存するという試みと (写真 2)、1836 年の創立 200 年祭の時に書かれた手紙類を開封して聴衆の前で読み上げ、それらを大学アーカイブズで保存するという試みである。

このハーバード大学の創立記念祭の「タイムカプセル郵便」が、紀元二千六百年文化柱の建造に影響をもたらしたという。アメリカが日本に影響を与えた戦前の事例として、この紀元二千六百年文化柱ほど好適な事例はないだろう。



【写真 2】

100 年前に封緘された手紙類を開封するハーバード大学関係者 (1936 年)

また、戦後の事例にも目を向けることとした。戦後のタイムカプセルの事例として、1950 年代に着目した。日本のタイムカプセル史においては、1950 年代は狭間となる年代である。終戦後の混乱、GHQ による間接統治、不安定な物資供給などを背景に、タイムカプセルはほとんど作られていない。1964 年のニューヨーク万国博覧会でウェスティングハウス社が出品したタイムカプセル「クロマルク」や、1970 年の大阪万博で毎日新聞社と松下電器産業株式会社が共同で制作した「タイム・カプセル EXPO'70」など、1960 から 1970 年代のメルクマールとなるタイムカプセルの誕生以前、1950 年代の日本でタイムカプセルは作られたのであろうか。

1950 年代のタイムカプセルとして注目した慶應義塾大学創立 100 年祭を記念して埋められた壺もまた、ハーバード大学創立 300 年記念祭 (1936 年) の影響を受けている可能性も高いと研究代表者は推測し、研究の対象とすることにした。

戦前と戦後のタイムカプセルを考えるうえで、ハーバード大学創立 300 年記念祭の存在を無視することはできないであろう。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近代日本におけるタイムカプセル誕生の経緯の解明にある。いかなる過程を経て、近代日本でタイムカプセルが作られるようになったのか。日本のタイムカプセル誕生の背景として、ハーバード大学創立 300 年記念祭 (1936)、ニューヨーク万国博覧会 (1939-1940)、同じくニューヨーク万国博覧会 (1964-1965) などが考えられる。ニューヨーク万国博覧会のタイムカプセルの研究は、筆者のみならず他の研究者によっても行われており、比較的研究の蓄積があるので、本研究においてはハーバード大学創立 300 年記念祭と日本との影響関係の解明に力点を置くこととした。

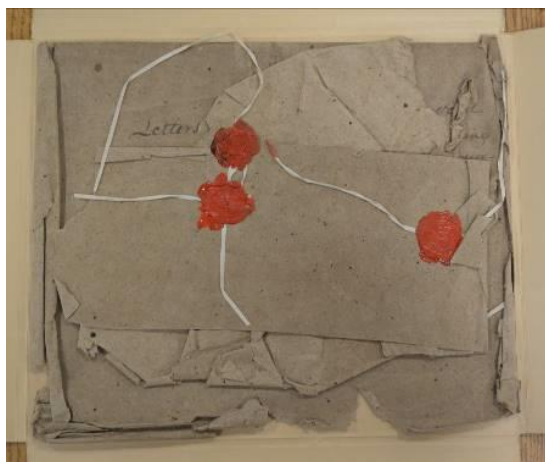
同時に日本で作られたタイムカプセルが海外のタイムカプセルに影響を与えた事例にも目を向け、イギリスの BBC (英国放送協会) が制作した BBC タイムカプセルの調査を実施することとした。タイムカプセルに関する日本と海外との関係性は、日本が海外か

ら一方的に影響を受けつづけるのではなく、逆に日本が海外に影響をもたらした事例もあると考えられるからである。タイムカプセルをめぐる日本と海外は、相互影響関係にあるといえるであろう。その影響関係をより具体的な事例を通して解明しようと努めるのが本研究である。

3. 研究の方法

米英にて現地調査を試みた。文字に書かれた情報を読むだけでなく、関係する現地に赴いて、資料の現物を調査することは、研究課題を解決するための重要な行為である。日本国内での調査だけではさまざまな面で限界があり、現物の閲覧に基づく調査が本研究では欠かせない。

アメリカでは、1936年に実施されたハーバード大学創立300年記念祭の把握が近代日本のタイムカプセル誕生の解明につながると考え、ハーバード大学アーカイブズで保存されている同記念祭の記念品を調査、創立200年祭の手紙類を包んでいた包装紙が残されていた(写真3)。



【写真3】 1836年に書かれた手紙類を包んでいた包装紙(ハーバード大学アーカイブズ所蔵、2017年筆者撮影)

また、日本の帝国大学と私立大学がハーバード大学の創立300年を記念して、各大学がさまざまな贈り物を贈呈していることも判明した。これはタイムカプセル研究とは直接的な関係はないものの、戦前の日米の大学の関係を示唆する重要な資料として調査した。

また、同記念祭とほぼ同時期に、オグルソープ大学(ジョージア州アトランタ市)でも、大型タイムカプセル「文明の地下室(Crypt of Civilization)」の計画が進行していたので、同大学でも現地調査を行った(写真4)。

「文明の地下室」が日本のタイムカプセルに直接的に影響を及ぼした資料は見つからなかったものの、「文明の地下室」に関する情報を記した日本語で書かれた資料を発見することができた。

また、同大学には国際タイムカプセル学会の事務機能が置かれていたこともあり、タイムカプセル研究を行う上では、調査が必要不可欠な機関であるといえる。



写真4
「文明の地下室」の外観
(写真に写るステンレス製の扉は、開封予定の西暦8113年まで開けられる予定はない。オグルソープ大学、2017年筆者撮影)

その一方で、日本のタイムカプセルが逆に海外のタイムカプセルの誕生を刺激した事例として、BBCタイムカプセルを調査した(写真5)。これは英国ヨーク州のカーズル・ハワードにあるハワード邸の敷地内に埋められており、2,000年間保存される予定である。



写真5 BBCタイムカプセル(英国、カーズル・ハワード、2017年筆者撮影)

BBCタイムカプセルを現地に赴いて調査した研究としては、日本では本研究が初めてではないだろうか。日本のタイムカプセルが世界規模で影響を与えた具体的な事例として、BBCタイムカプセルを位置づけることができるであろう。

4. 研究成果

ハーバード大学創立300年記念祭が、日本の戦後にまで影響を与えたことがはっきりとした。1958年の慶応義塾大学創立100年祭を記念して制作されたタイムカプセルは、100年後の大学関係者に宛てた手紙を残すなど、ハーバード大学創立300年記念祭を模している。慶応義塾大学の三田キャンパス(東京都港区)に埋められたこの壺は、戦後のタイムカプセルとしては、信濃毎日新聞社によるタイムカプセル「ペンの庫」(長野県長野市、1951年)と並んで、最初期の事例と考えられる。

この壺の発案には、1936年のハーバード大学創立300年記念祭に参加した当時の塾長・小泉信三の存在が大きく関係したと、研究代表者は考えている。記念祭に出席した小泉は、その様子を事細かに書き残しており、その記録は小泉が記した『アメリカ紀行』(1938年)に採録されており、この記述を読んで感銘を受けた式正次(新聞之新聞社創業者)が、紀元二千六百年文化柱の建設を思いついたのである。

慶応義塾大学創立100年祭の壺の中には、

100年後の創立200年祭に向けたメッセージが封じられている。このメッセージは小泉の手によって書かれており、これは実際にハーバード大学創立300年記念祭に立ち会った小泉がハーバード大学による「手紙の封緘と開封」をヒントに思いついたことは明白であり、ここにタイムカプセルをめぐる米国と日本との影響関係を看守できる。

オグルソープ大学では、日本語で書かれた資料を発見した。この資料には「文明の地下室」の概要が日本語で書かれているが、この出所もはっきりとせず（誰がいつどこで何を目的に作成したのか）、これまで学術的に調査されたこともない。今後はこの資料をより詳細に調べる必要があると考えている。

なお、同大学に、国際タイムカプセル学会（The International Time Capsule Society）の本部機能が置かれているが、同学会は創設された1990年代から2000年代初頭までは、タイムカプセル研究の中心的役割として機能したが、現在では実質的にその活動は休止状態にあることも調査を通じて判明した。

このBBCタイムカプセルは、1970（昭和45）年の大阪万博の際に作られた記念タイムカプセル「タイム・カプセル EXPO'70」を一部で模倣していると思われる。BBCタイムカプセルのプロデューサーの1人が大阪万博に訪れて「タイム・カプセル EXPO'70」を見たことが本研究で判明した。本来は、「タイム・カプセル EXPO'70」と同じ保存期間である5,000年を目指したが、制作コストや技術的な面の諸般の事情により2,000年に短縮されたようだ。

戦前と戦後の日本のタイムカプセルをめぐる日本と海外との影響関係を本研究を通じて一定程度は明らかに出来たと研究代表者は考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計1件）

坂口英伸「水先案内人としての文化資源学」、『文化資源学』第16号、文化資源学会、2018年、94-95頁、査読なし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂口 英伸 (SAKAGUCHI, Eishin)
東京国立近代美術館 学芸課 アソシエイトフェロー

研究者番号：00646440